

演 題	通所リハビリでのタブレット活用
副 題	Instagram 始めました

フリガナ	カツヌナーシングセンター
施 設 名	勝沼ナーシングセンター
フリガナ	カイゴフクシシ イワモリ シュン
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 岩森 俊
フリガナ	ツウショリハビリテーション ショクインイチドウ
共同研究者	通所リハビリテーション 職員一同

【はじめに】

私達の生活において欠かせない存在であるインターネット。生活のあらゆる場面で必要な情報へのアクセスが容易となり、普段では当たり前のように使用している。最近では利用者がスマートフォンを用いて孫の写真を見せてくれたり、作品作りの動画を見て参考にされ活用していた。当施設では取り組んだ作品や活動の様子を広報誌で3ヶ月に1度出しているが、直ぐに家族や知人へ見てもらう事で、活動への意欲向上や家庭内での話題作りになるのではないかと考え、Instagram等のインターネットを活用した取り組みを報告する。

【取り組み内容】

タブレットにてInstagramを開始し、日頃利用者が作成した作品紹介や活動内容、行事、リハビリの様子や施設設備として浴室、部屋、感染対策等を投稿し、InstagramのQRコードを家族へ配布し、口頭でInstagramを行っていることを伝える。

無料音楽アプリやラジオアプリ、YouTubeをBluetoothスピーカーで流し作業中のBGMやレクリエーション、ラジオとして使用。

無料配布されている塗り絵や脳トレの問題の利用。

配信動画やzoomでの研修での活用。

【結果】

Instagramでは、主に利用者が作成した季節ごとの作品や行事の様子を写真や動画で観られることにより、利用者が活動への意欲向上が見られた。特に作品では家族と共有して話しが出来たことや他の利用日の方からも興味のある話が聞け、以前保育園と小学校が福祉学習で訪れた時に踊りや歌を披露してくれたお礼として、お手玉と雑巾を作成し代表者が渡す様子が伝えられた。百歳を迎えられた利用者の紹介では、お誕生日写真をアップすると、お孫さんからもフォローされ、遠くに離れた親族も観ることができたと大変好評でした。他にも歌を披露する利用者は、動画にすることで楽しみが増え、在宅での練習もされ活動が向上している。Instagramの操作は投稿も難しくなく、時間も掛からずに行え、画像で伝

えられるので分かりやすく、広報紙より簡略化が行えた。また他施設の行事や取り組みをInstagramで見ることで参考にしている。

音楽は懐かしの曲を流すことで思い出の話をきっかけにコミュニケーションが増え、職員もCD等の用意が不要なく豊富な種類の曲を簡単に提供できた。地域柄畑でラジオを聞かれている方もおられ楽しみにされていた。レクリエーションではイントロクイズや音楽付きの体操を行うことでマンネリ化解消が図れ、利用者も興味を持って体操に参加頂けた。

塗り絵や脳トレの問題も多く、利用者に見せることで好みの物を提供行なえ意欲向上に繋がった。

配信の職員研修では、動画を見る時間や場所を確保しやすく、密を避けることでコロナ禍でも感染防止への取り組みとしても活用出来た。

現在では新規の利用者宅へタブレットを持っていく事で、施設内や活動内容などを伝えやすく、利用者や家族からも好評を頂いている。又、地図アプリを活用して家の確認や送迎ルートの検討にも役立っている。

【まとめ】

今年の5月よりコロナウイルスが5類となり、規制等の緩和は進んできているが、介護現場での取り巻く環境はいまだに厳しい状況が続いている。利用者においては、安全な生活を守るために制限をしなければならない事もあり、自分らしく過ごす難しさが感じられた。今回のインターネットを活用した取り組みはコロナ禍でも安全に時間や場所を気にせずコミュニケーションのツールとして使用でき、また職員の情報収集に活用する事もでき、コロナ禍だからこそ気づけた取り組みだった。

各老健施設での取り組みをインターネットで気軽に閲覧出来れば多くのヒントを得ることができ、新たな閃きも期待されます。

「Instagram始めてみませんか？」